

投資事業評価調書（継続：再評価 [第 2 回] ）

部課室名	県土整備部土木局 港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 芝原 平 (海岸・防災係長 平井 住夫)	内線	4440 (4452)
------	-----------------	-----------------------	--------------------------------	----	------------------

事業種目	海岸事業	事業採択年度	H 3	現計画	再評価時点
事業名	姫路港海岸 高潮対策事業	着工年度	H 3		
		再評価年度	H 1 2	内地補償費	- 億円
事業区間	浜 田 地 区			完成予定年度	H19
				進捗率 (内用補進捗率)	89%
所在地	姫 路 市 網 干 区 浜 田			残事業費	約 2 億円

事業の目的	事業内容
<p>姫路港の西端に位置する浜田地区は、背後に事業所が多数立地し活発な経済活動を行っている。 しかし、高潮に対する護岸の必要天端高さが不足し、また老朽化も著しい状況にあることから、護岸、胸壁を必要な高さまで整備し、高潮による浸水被害から資産を守り地域の安全と安心を確保する必要がある。</p>	<p>護岸（改良） L = 9 6 0 m 胸 壁 L = 7 5 0 m [負担割合 国：1/2 県：1/2]</p>

事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<p>当海岸事業で護岸等を整備する区域に水面貯木場があるが、社会情勢の変化により、別途事業でその水面貯木場を埋め立て、陸上貯木場に変更することとなった。このため、地元関係者との調整に時間を要し、完了年度が平成 1 8 年度から 1 年延伸し平成 1 9 年となり、事業延長(L=610m)及び事業費(約 8 億円)が減少した。(H15.12 に港湾計画を変更し、現在埋め立て事業に必要な環境アセス等を実施中である)</p>
-------------------	---

進捗状況	<p>護岸（改良）については、平成 1 7 年度に L = 9 6 0 m 完了予定 残る胸壁については、整備する胸壁の位置について関係者との調整を行ったため、着手が 1 年遅れた。また岸壁等の荷役作業等との調整から完成まで最低 2 力年を要し、完成は平成 1 9 年度となる。</p>
------	---

評価視点	評価結果の説明
------	---------

(1)必要性	<p>平成 1 6 年台風による高潮の影響で未整備箇所から越波し、一部道路が冠水し、背後地の企業が敷地内の浸水に不安を抱いて状況にあるが、今回の整備を行うことにより、背後地にある資産を高潮による浸水被害から防護し、地域の安全と安心を確保することができる。 既設護岸は完成より 3 0 年以上経過することから、今回護岸等を整備することにより、防災機能の延命化を図ることができる。</p>
--------	--

(2)有効性・効率性	<p>費用便益比 B / C = 2 . 4 (前回評価時点 B / C = 1 . 8) 残事業を完成させることで、浜田地区を浸水被害から防護することができる 背後地に立地する企業からも、平成 1 6 年の冠水状況を受けて早期の事業完了の要望が出ている</p>
------------	---

(3)環境適合性	<p>本事業の護岸（改良）工事については、既設護岸全面に必要な最低限前面に設置することから、環境や景観に与える影響は少ない。</p>
----------	--

(4)優先性	<p>現在、一部区間について工事が未完成であり、必要な天端高さを満足していないことから、背後地に浸水被害が発生する恐れがあり、早急に整備を行う必要がある。</p>
--------	---

再々評価の結果	<p>継 続</p>	<p>左の理由 浜田地区を浸水被害から防護し、地域の安全と安心を確保するためには、事業を継続して完成させる必要がある。</p>
---------	------------	---